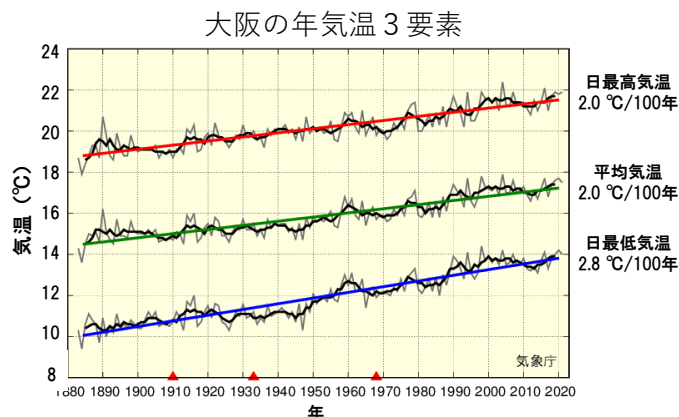


■背景と目的

産業革命以降、人類の活動により地球の「温室効果ガス」の濃度は増加し、地球温暖化というかたちで、私たちの生活にさまざまな影響を与えています。

大阪府域でも農業・水産業において、地球温暖化の影響が観察され、農作物の品質低下や水産資源の減少など、私たちの食、そして農業・水産業の持続性への負の影響が懸念されています。

食の恵みをまもるためには、気候変動の影響を把握し、被害を回避・軽減していく適応策を進めていくことが重要です。



最高気温が高いうえ、夜も気温が下がらない日が増加

■気候変動がもたらしていること

① 農業分野における気候変動の影響

▶ 大阪府域で栽培されている水稻品種や特産農産物では、すでに生育不良や品質低下が発生

	高温によるつやなし果 (水ナス)		高温による胴割れなど (水稻)
	高温による着色不良 (巨峰)		心枯れ症 (シュンギク)

▶ 農業害虫は北上し、分布を拡大

	水稻・畑作の害虫 (ミナミアオカメムシの成虫)		イチジクの害虫 (イチジクヒトリモドキの幼虫)
--	-------------------------	--	-------------------------

② 水産分野における気候変動の影響

▶ 海水温上昇により、大阪湾の水産資源量が変化

減少		イカナゴ		マアナゴ	漁期が変化
増加		ハモ		ハウボウ	

イカナゴの写真提供: 大阪府

※資源量の変化は海水中の栄養塩や酸素の量などの影響も受けるため、海水温上昇だけが原因とは断定できない

■気候変動への適応

① 農業分野における適応

▶ 高温環境でも品質を維持するための新たな栽培技術を開発

	環状はく皮による着色改善 (ブドウ)		ハウスの自動開閉による高温対策 (ブドウ)		細霧冷房によるつやなし果の発生軽減 (水ナス)		株元送風による高温期の安定生産 (軟弱野菜)
--	--------------------	--	-----------------------	--	-------------------------	--	------------------------

▶ 高温環境でも栽培可能な新たな品種の導入を検討

	温暖な大阪でも着色が良好な醸造用品種 (大阪RN-1)		玄米の白未熟粒が高温下でも発生しにくい品種 (左の2品種は環農水研の栽培試験で府内の栽培適性も高いことを確認)
--	-----------------------------	--	---

▶ 発生予察による農業害虫の侵入警戒

	予察灯 (光源を備え、害虫を誘殺)		フェロモントラップ (フェロモンで特定の害虫を誘殺)
--	-------------------	--	----------------------------

② 水産分野における適応

▶ 天然資源を漁獲している水産業では、水産資源の持続性を保つていくために、対象種の資源量を把握し、評価・管理を実施

▶ ワカメ養殖では、高水温の影響を避け、安定して生産・出荷できる技術を開発

	配偶体をフラスコで培養		配偶体を糸に塗布		成長しているワカメ
--	-------------	--	----------	--	-----------

本調査の一部は「令和2年度環境省国民参加による気候変動情報収集・分析事業」の一環として実施しました